

「包括的技術報告書」 誤記等 修正対応表

2021年6月3日 修正箇所

付属書

付属書 番号	ページ	位置 (行など)	修正前 (誤)	修正後 (正)
4-26	9	3行目	ガラス固化体が地下水と接触して放射性核種が溶出した際、溶存イオン濃度は地下水の水質に応じた溶解度で制限される。	TRU等廃棄物が地下水と接触して放射性核種が溶出した際、溶存イオン濃度は地下水の水質に応じた溶解度で制限される。
4-26	9	4行目	溶存イオン濃度が溶解度に達している際、ガラス固化体から溶出した放射性核種は固相として沈殿するが、廃棄体近傍に留まらず、コロイドとして人工バリア外部へ移行することが懸念される。	溶存イオン濃度が溶解度に達している際、TRU等廃棄物から溶出した放射性核種は固相として沈殿するが、廃棄体近傍に留まらず、コロイドとして人工バリア外部へ移行することが懸念される。
6-24	20	表4	充填材中の実効拡散係数の値 低Cl濃度地下水： $7 \times 10^{-10}$ 高Cl濃度地下水： $7 \times 10^{-10}$ 第2次TRUレポート： $8 \times 10^{-10}$	充填材中の実効拡散係数の値を下記に修正 低Cl濃度地下水： $8 \times 10^{-10}$ 高Cl濃度地下水： $8 \times 10^{-10}$ 第2次TRUレポート： $8 \times 10^{-10}$
6-24	22	表5	d 充填材中の実効拡散係数[m <sup>2</sup> /s]	充填材中の実効拡散係数[m <sup>2</sup> /s]
6-24	22	表5	充填材中の実効拡散係数の値 包括的技術報告書（基本ケース）： $7 \times 10^{-10}$	充填材中の実効拡散係数の値を下記に修正 包括的技術報告書（基本ケース）： $8 \times 10^{-10}$
6-24	24	表6	充填材中の実効拡散係数の値 包括的技術報告書（基本ケース）： $7 \times 10^{-10}$	充填材中の実効拡散係数の値を下記に修正 包括的技術報告書（基本ケース）： $8 \times 10^{-10}$
6-24	25	表7	充填材中の実効拡散係数の値 包括的技術報告書（基本ケース）： $7 \times 10^{-10}$	充填材中の実効拡散係数の値を下記に修正 包括的技術報告書（基本ケース）： $8 \times 10^{-10}$
6-25	18	表8	充填材中の実効拡散係数の値 基本ケース（包括的技術報告書）： $5 \times 10^{-10}$	充填材中の実効拡散係数の値を下記に修正 基本ケース（包括的技術報告書）： $6 \times 10^{-10}$
6-26	18	表8	充填材中の実効拡散係数の値 包括的技術報告書（基本ケース）： $5 \times 10^{-10}$	充填材中の実効拡散係数の値を下記に修正 包括的技術報告書（基本ケース）： $8 \times 10^{-10}$

「包括的技術報告書」 誤記等 修正対応表

2021年4月28日 修正箇所

概要編

章	ページ	位置 (行など)	修正前 (誤)	修正後 (正)
	iv~v	目次	図表目次の落丁	図表目次を追加
	14	ページ一番下の段落	文章の両端が不揃い	文章を両端揃えに修正
	48	図14	(a) ドラム缶用の充填材の高さ寸法を「890～1100」と記載 (b) キャニスタ用の充填材の高さ寸法の記載がない	(a) ドラム缶用の充填材の高さ寸法を「890～1000」に修正 (b) キャニスタ用の充填材の高さ寸法「1450」を追記
	119	脚注47	「1.3節の図1参照」の「図1」のフォントサイズに誤り	「1.3節の図1参照」の「図1」のフォントサイズを修正
	122	上から3行目 (修正後は上から1行目)	「(2) 安全機能を有する処分場の設計と工学技術」のタイトルの前に改行の抜け	p.119の行間を調整することで7.2節をp.120の1行目からとし、「(2) 安全機能を有する処分場の設計と工学技術」がp.122の1行目となるように修正
	125	下から2行目 (修正後は下から5行目)	してしていく	していく
	133	上から16行目	参考文献番号の[10]に黄色のハイライトがある	参考文献番号の[10]の黄色のハイライトを削除
	144	下から4行目	箇条書きと「これらのことから…」の間の改行が抜けている	箇条書きと「これらのことから…」の間に改行を追加

本編

章	ページ	位置 (行など)	修正前 (誤)	修正後 (正)
2	6	下から4行目	火災物密度流	火砕物密度流
4	21	表4.2-6	地表面の温度 $t$	地表面の温度 $T_0$
4	52	図4.4-21	(a) ドラム缶用の充填材の高さ寸法を「890～1100」と記載 (b) キャニスタ用の充填材の高さ寸法の記載がない	(a) ドラム缶用の充填材の高さ寸法を「890～1000」に修正 (b) キャニスタ用の充填材の高さ寸法「1450」を追記
6	27	図6.3 - 1	ふるまいに関する記述全体	「付属書6-11 ストーリーボードの作成」の当該図中の記述と整合させた
6	58	上から1行目	空白行あり	1行詰め
6	113	下から3行目	空白行あり	1行詰め
6	170	上から6行目	0.5行余分に空白行あり	0.5行詰め
6	172	上から1行目	空白行あり	1行詰め
6	177-196 (修正後は 176-195 ページ)	ページ番号	—	行詰めの影響によりページ番号を各1ページずつ繰り上げ
6	185 (修正後は 184ページ)	上から1行目	空白行あり	1行詰め

7	11	下から13行目	及び	および
7	15	下から4行目	するととも放射線	するとともに放射線
7	20	下から5行目	それれの	それぞれの
7	21	下から3行目	各種以降パラメータ	核種移行パラメータ
7	25	上から16行目	してしていく	していく
7	28	上から3行目	図7.2-4	図7.2-5
7	35	上から8行目	論じてもの	論じたもの
7	48	上から12行目	としてのの	としての
7	49	上から5行目	OECE/NEA	OECD/NEA
7	52	上から5行目	改定	改訂
7	55	図7.4-1の図中下部	概要調査および精密調査地区及び建設地	概要調査および精密調査地区および建設地
7	56	上から13行目	地層や岩体、断層など	地層や岩体、断層など
7	59	図7.4-2の図中	「概要調査地区の選定と評価」 「概要調査地区を対象とした概念」	「精密調査地区の選定と評価」 「精密調査地区を対象とした概念」

付属書

付属書番号	ページ	位置 (行など)	修正前 (誤)	修正後 (正)
付属書 2-3	2	下から6行目	① ③を計算するための	上記の①～③を計算するための
付属書 2-3	51	下から9行目	「閉鎖後長期の安全評価の対象として選定した45個の核種について、30年間と50年間の貯蔵期間後におけるガラス固化体1本あたりの放射能を算出した結果を表14に示す。また、核種移行解析で考慮する放射性核種の崩壊系列について図11に示す。」	「閉鎖後長期の安全評価の対象として選定した45個の核種について、30年間と50年間の貯蔵期間後におけるガラス固化体1本あたりの放射能を算出した結果を表14に示す。閉鎖後長期の安全評価における基本シナリオや変動シナリオでは製造後の貯蔵期間を50年とし、製造から50年経過した時点の放射能インベントリからさらに1,000年経過後の放射能インベントリを計算して与える（本編6.4.1.(v)(b)①参照）。表15に貯蔵期間終了後から1,000年経過したガラス固化体1本に含まれる閉鎖後長期の安全評価の対象となる核種の放射能を示す。また、核種移行解析で考慮する放射性核種の崩壊系列について図11に示す。」
付属書 2-3	52	表14の見出し	安全評価に用いる対象核種と放射能インベントリ	安全評価に用いる対象核種と貯蔵期間終了時の放射能インベントリ
付属書 2-3	52	表14	表中「30年」「50年」と記載	「貯蔵期間30年」と「貯蔵期間50年」に修正
付属書 2-3	52	表の落丁	「表15 安全評価に用いる対象核種と貯蔵期間終了から1,000年後の放射能インベントリ（ガラス固化体）」の落丁	「表15 安全評価に用いる対象核種と貯蔵期間終了から1,000年後の放射能インベントリ（ガラス固化体）」の追記
付属書 2-3	52ページ以降	表番号	—	表の追加に伴い表番号を繰り下げ

付属書 2-3	53	下から14行目	「表 15 に核種移行解析に用いる核種と製造後25年の各グループの放射能インベントリ <sup>6</sup> を示した。」	「表 16に廃棄体パッケージAを対象とした閉鎖後長期の安全評価において対象となる核種移行解析に用いる核種と製造後25年の各グループの放射能インベントリ <sup>6</sup> を示した。また、廃棄体パッケージBを対象とした閉鎖後長期の安全評価では、製造後25年経過した時点での放射能インベントリからさらに300年経過後の放射能インベントリを用いる。表 17に製造後25年経過からさらに300年経過後の放射能インベントリを示す。」
付属書 2-3	54	表15の見出し	表15 安全評価に用いる対象核種と放射能インベントリ(TRU等廃棄物)	表16 安全評価に用いる対象核種と廃棄体製造から25年後の放射能インベントリ(TRU等廃棄物)
付属書 2-3	54	表の落丁	「表 17 安全評価に用いる対象核種と製造後25年経過からさらに300年経過後の放射能インベントリ (TRU等廃棄物)」の落丁	「表 17 安全評価に用いる対象核種と製造後25年経過からさらに300年経過後の放射能インベントリ (TRU等廃棄物)」の追記
付属書 3-32	3	上から9行目	約2,100件	約21,000件
付属書 3-32	9	上から9行目	図 5	図 6
付属書 3-32	16	上から11行目	NH <sup>4+</sup>	NH <sub>4</sub> <sup>+</sup>
付属書 3-32	18	上から9行目	をでは	では
付属書 3-32	19	上から2行目	メクタイト	スメクタイト
付属書 3-32	23, 24 (修正後は 23ページ)	表 8	最下部の注釈 (※) が表のどこを指しているのか不明確	表中の対象箇所に注釈 (※) を明記
付属書 3-32	23, 24 (修正後は 23ページ)	表 8	最下部の注釈 (※) 中の読点に「、」を使用	最下部の注釈 (※) 中の読点を「,」に修正
付属書 3-32	23, 24 (修正後は 23ページ)	表 8	1ページに集約可能な表が (1/2) , (2/2) として、2ページに掲載	セルの高さを変更して表を一つに集約し、(1/2) (2/2) を削除
付属書 3-32	25, 26 (修正後は 24ページ)	表 9	最下部の注釈 (※) が表のどこを指しているのか不明確	表中の対象箇所に注釈 (※) を明記
付属書 3-32	25, 26 (修正後は 24ページ)	表 9	最下部の注釈 (※) 中の読点に「、」を使用	最下部の注釈 (※) 中の読点を「,」に修正
付属書 3-32	25, 26 (修正後は 24ページ)	表 9	1ページに集約可能な表が (1/2) , (2/2) として、2ページに掲載	セルの高さを変更して表を一つに集約し、(1/2) (2/2) を削除
付属書 3-32	27, 28 (修正後は 25ページ)	表 10	最下部の注釈 (※) が表のどこを指しているのか不明確	表中の対象箇所に注釈 (※) を明記

付属書 3-32	27, 28 (修正後は 25ページ)	表 10	最下部の注釈 (※) 中の読点に「、」を使用	最下部の注釈 (※) 中の読点を「,」に修正
付属書 3-32	27, 28 (修正後は 25ページ)	表 10	1ページに集約可能な表が (1/2), (2/2) として、2ページに掲載	セルの高さを変更して表を一つに集約し、(1/2) (2/2) を削除
付属書 3-32	29 (修正後は 27ページ)	上から19行目	最後の著者名の前に "and" の記載漏れ	最後の著者名の前に "and" を追記
付属書 3-32	29 (修正後は 27ページ)	下から10行目	文献ページの記載漏れ	文献のページを追記
付属書 3-32	30 (修正後は 28ページ)	上から8行目	2名の著者名の間の "and" の記載漏れ	2名の著者名の間に "and" を追記
付属書 3-32	30 (修正後は 28ページ)	上から22行目	文献2件の記載漏れ	文献2件 (「加藤進, 梶原義照 (1986)」, 「加藤進, 安田善雄, 西田英毅 (2000)」) を追加
付属書 3-32	30 (修正後は 28ページ)	下から8~11行目	文献の記載順の誤り (「LaZerte, B.D. . . .」 → 「Laaksoharju, M. . . .」の順に記載)	文献の記載順の修正 (「Laaksoharju, M. . . .」 → 「LaZerte, B.D. . . .」の順に修正)
付属書 3-32	30 (修正後は 28~29 ページ)	下から5行目 (修正後は28ページの 下から1行目)	文献3件の記載漏れ	文献3件 (「松浪武雄 (1993)」, 「松浪武雄 (1994)」, 「宮崎哲郎, . . . (2007)」) を追加
付属書 3-32	31 (修正後は 29ページ)	上から10行目 (修正後は上から20行目)	文献1件の記載漏れ	文献1件 (「奥山康子, . . . (2008)」) を追加
付属書 3-32	32 (修正後は 30ページ)	上から1行目 (修正後は上から13行目)	文献1件の記載漏れ	文献1件 (「関陽児, . . . (2004)」) を追加
付属書 3-32	32 (修正後は 30ページ)	上から8行目 (修正後は下から20行目)	文献の記載内容の誤り (著者の重複) 最後の著者名の前に "and" の記載漏れ タイトルの記載の誤り ("isotopes. SDM-Site")	重複著者 (「Gimeno, M.」) を削除 最後の著者名の前に "and" を追記 タイトルの記載を修正 ("isotopes; SDM-Site")
付属書 3-32	32 (修正後は 30ページ)	下から11行目 (修正後は下から14行目)	最後の著者名の前に "and" の記載漏れ	最後の著者名の前に "and" を追記
付属書 3-32	32 (修正後は 30ページ)	下から6行目 (修正後は下から8行目)	文献1件の記載漏れ	文献1件 (「吉田史郎, . . . (1991)」) を追加

付属書 4-21	1	図1	ハル缶・インナーバレルの図の輪郭が点線	ハル缶・インナーバレルの図の輪郭を実線に修正
付属書 4-21	2	3.2.1見出し	フォントがMS明朝	フォントをMSゴシックに修正
付属書 4-21	3	図3	(a) ドラム缶用の充填材の高さ寸法を「890～1100」と記載 (b) キャニスタ用の充填材の高さ寸法を「1550」と記載	(a) ドラム缶用の充填材の高さ寸法を「890～1000」に修正 (b) キャニスタ用の充填材の高さ寸法を「1450」に修正
付属書 4-21	3 (修正後は 4ページ)	3.2.2見出し	フォントがMS明朝	フォントをMSゴシックに修正
付属書 4-21	4	3.2.3見出し	フォントがMS明朝	フォントをMSゴシックに修正
付属書 4-21	5	下から1行目	・廃棄体パッケージBのモルタルは、保守的に蓋との隙間なく充填されていると仮定した。	削除
付属書 4-35	3～12	全般	強度、応力、圧力の単位にN/mm <sup>2</sup> , kN/m <sup>2</sup> を使用	単位をPaに統一 (MPa, kPaを使用)
付属書 4-55	1 (修正後は 2ページ)	図1	図1中の表と図が別ページに跨がっている	表と図を同一ページに整理
付属書 6-1	21	式 (3-1)	第2項のfの添え字のiとjが逆 (「f <sub>ji</sub> 」)	第2項のfの添え字のiとjの並びを「f <sub>ij</sub> 」に修正
付属書 6-1	63	表22のキャプション	GBI 河川	GBI 深井戸
付属書 6-14	7	図8	XZ断面とYZ断面の図の配置が逆	XZ断面とYZ断面の図の配置を修正
付属書 6-14	30	図38	XZ断面とYZ断面の図の配置が逆	XZ断面とYZ断面の図の配置を修正
付属書 6-14	42	図61	YZ断面の図がほかの図より大きい	他の図とサイズを合わせた
付属書 6-14	159	図191	XY, YZ, XZ平面投影図の配置に誤り	配置を修正した
付属書 6-14	165	図193	XY, YZ, XZ平面投影図の配置に誤り	配置を修正した
付属書 6-14	170	図195	XY, YZ, XZ平面投影図の配置に誤り	配置を修正した